



スマイシアHD株式会社 代表取締役会長  
アサヒグローバルホーム(株) 取締役会長  
ゴールドトラスト株式会社 取締役会長  
ゴールドエイジ株式会社 取締役会長  
文/久保川 議道  
text:Yoshimichi Kubokawa

## グループホームの母が亡くなりました

全ての「会長のひとりごと」がWEBで読める!  
『くぼかわよしみち.com』

くぼかわよしみち.com

検索



毎月  
20日  
更新!!

7月19日(水)が通夜で、20日(木)に家族葬で見送りました。94歳で老衰です。グループホームの職員さんに十分なお世話をしていたら、幸せに安らかに一生を終えることができました。認知症なので家族で介護ができなかったのが心残りですが、職員さんに8年間の長きに渡ってご面倒をおかけしました。感謝の言葉もありません。心より感謝申し上げます。

8年前には私の家内の病気も悪化してしまいましたので(6年前に他界)、認知症の母の介護は自宅ではできませんでした。それまでも母は何回も家を出てしまうので警察に捜索願を出したり、遠くでフラフラ歩いている母を見知らぬ人が助けていたというご連絡をしていたら、車にぶつけられて腰の骨を折って入院したり、もう家族では限界でした。

そして紹介いただいて、お願いして預かっていたのが生桑の『渚園』さんでした。本当に良い施設で評判が良いのは入所してみてもすぐに分かりました。職員さんの対応も素晴らしくて心がこもっていますし、開設された方は三重県の介護の専門家としても活躍されています。そういう方が運営される施設はやはりレベルが高いと思いました。

そしてまた、私の祖母は96歳で他界しましたが、その時は家内と母親の2人の女性が認知と介護と看取りをし、してくれました。私にできることは何もありませんでしたが、廊下に落ちた便を拭くことくらいです。

しかしこの祖母の介護で私達家族は『家庭崩壊』のギリギリを体験させられました。仕事もありますし、子供達の世話もありますし、一番辛かったのはこの24時間365日続く祖母の介護がいつ終わるのかが全く分からない苦しみでした。認知症の祖母に罪はありませんが、介護の専門知識と経験のない私達にとつてこの苦しみは限界でした。祖母が早く亡くなってくれれば苦しみがなくなるのに……と考えるはいけないと、分かっているのですがやはり考えてしまいました。もう限界です。

まあその体験があったので、『介護は家族が家庭でやらないでください』という方針で16年前からゴールドエイジの介護・看護の仕事を始めました。今では50ヶ所の施設を運営する会社になりましたが、この仕事を始めるきっかけになったのは、祖母の介護の家庭崩壊の苦しい体験だったので。そして今回の母のグループホームでの手厚い介護で家族が助けられたこ

と。家内は亡くなってしまいました。母の介護を自宅でやっていたら家内にも大変な負担となっていたはず。これも助かりました。グループホームの皆さんには感謝、感謝なのです。

さて、ゴールドエイジもいつそう頑張らなければと思いました。私達の介護と看護の仕事がどれだけ世の中のお役に立っているのかと、ご家族の助けになっているのかを今回の母の他界で知ることができました。そして今、ゴールドエイジは施設の数を増やし量を増やしていますが、その増えた分は介護や看護の質を上げていかないと事業は破綻すると思えました。量を追求するのではなくて質を上げないとやっていけません。

ゴールドエイジの職員さんもそれは十分に分かっているとは思いますが、レベルを上げることは普通の努力ではできないことなのです。限界を超えた先には成長はありません。レベルの低いゴールドエイジになってはいけません。渚園さんのレベルを目標にして一人一人の社員さんが努力願います。

本部はそのためにもいくつもの計画を立てて実行しています。本部は社員さんを支え、社員さんは入居者のお一人お一人を支えてください。宜しくお願います。

わくわく  
夢

ニュース【高齢者住宅】

2023

8月

No.199

ゴールドライフ富田

アクティブシニア向け高齢者住宅

外出自由、食事も選べる。自由気ままなシニアライフ。

